



オンラインで  
殺人鬼に  
モテるのは  
満更でもないが  
ガチホラーの村で  
姦すのはご勘弁を

雪に閉ざされたある小さな村。

冬の間、村人のほとんどが巣ごもりをし、村の外からの訪問客は途絶え、人の往来はなし。

が、その日は十人ほどの男が助けを求めて村へ。

幻の動物といわれるユキヒョウを追ってのドキュメンタリーを撮る撮影隊らしい。

撮影中に天候が激変をし、登山道からはぐれて迷子。

遭難しかけていたところ村の明かりを見つけたとのこと。

村人たちは彼らをねぎらい、手厚くもてなし、空き家を宿屋として提供。

村長が泊まって彼らの世話をしたのだが、真夜中に血相を変えて、村人たちを集会所に召集。

開口一番に発したことには「彼らは今、世界を転々とする殺人鬼集団『デヴィルシュ・ホミサイド』らしい」と。

こうした人里離れて住む人をターゲットに、命がけのゲームをしかけてくる。

ゲームといっても、ほぼ一方的に住人が虐殺され、村や町がつぎつぎと滅んでいっているとか。

ゲームの内容は、敷地内をうろつく殺人鬼に見つからず捕まらないよ

う、逃げたり隠れたりして、村の囲いから脱出するというもの。

相手が殺人鬼とあり、捕まれば即殺されるし、むやみに村の外に跳びだせば地雷にふつとばされる。

殺人鬼たちは村のぐるりに地雷を隈なく設置。

ただし、埋めていない空白があり、そこが唯一の脱出口。

その場所を探し当てるのは必須として、さらに極寒の地にて深い雪をかき分け、遠い町までいくのに食料や装備が必要。

「地雷原の空白を見つけること」「倉庫にある食料と装備をとりに行くこと」。

外を歩きまわる殺人鬼の目を盗み、この二つをやり遂げるべく、長い

夜に命を賭けた村人たちの脱走劇がはじまる・・・。

殺人鬼に囲まれた異常な状況で反応するか不安だったが、なんのその。

目をつぶったほうが、殺人鬼の視線が意識されて屈辱感が増し増し。また若い農夫が「ごめん、ごめんよお、ああ、そんな囲キング・・・」と泣きながら見ているようなのに、羞恥で肌が焼けるよう。

すっかり火照って敏感になった体に縄が食いこみ擦れて跳ねて軋む。

ぺちぺちと縄が当たるのに胸の突起は張りつめて、ぎしぎしと摩擦す

るのに弱い脇が震えてやまず。  
性感帯でない個所が擦れても「あう、く、はあう・・・！」と熱く吐息  
してしまい。

もちろん下半身にも縄が張り巡らされ、膨張するにつれ先っぽがきつ  
く食いこんでいく。

擦れる縄のわずかな隙間から先走りがだらだら。

いつまでも屈辱的なショーを見せたくはない。

「早く、早くう」と腰を揺らし、自ら先っぽに擦りつければ、いやで  
も耳につくぬちぬちゆちゆと水音。

「弱気若者を救うため自己犠牲を払う正義のヒーローを気取っておい  
て、単なる視姦が大好物な淫乱じゃねえの？

ふつう殺人鬼に睨まれてちやあ萎えるだろうに、滑稽なほど腰をかくかくして恥ずかしげもなく大量にお漏らししてさあ」

「ああ、もしかして俺らに舐めて吸って飲んでほしいの？」とせせら笑われて「くう・・・」と唇を噛みながらもぞくぞく。

